

第3章 基本計画

1.1 地域コミュニティの活性化で自立したまち（協働）

現状と課題

- 少子高齢化や人口減少、価値観の多様化など社会の急激な変化によって、地域コミュニティにおける住人同士の連帯意識が希薄化し、全国的にコミュニティ機能の低下が懸念されています。その一方で、地域における防災、防犯対策、子育て、高齢者の見守りなど、地域コミュニティに期待される役割は依然として多く、ともに支え合い、楽しく、前向きに助け合いながら地域の課題を自ら解決することの重要性が再認識されています。

本市では、10地区にコミュニティ組織が形成されており、運動会や芸能祭、環境保全活動、交通安全・防犯対策活動など、様々な事業が展開されています。

しかし、本市においても少子高齢化や価値観の多様化などの影響から、全体的に地域のコミュニティ活動が停滞気味となりつつあるほか、学校の適正配置に伴い、これまで地区と学校が連携して取り組んできた事業の開催が困難となることが懸念されており、将来にわたって自立した地域を目指し、持続可能なコミュニティ活動の促進と地域で子ども達を支える体制づくりが大きな課題となります。

今後は、これまでのコミュニティ組織を維持しつつ、社会環境の変化に応じたコミュニティの構築に向けた施策の展開などにより、総合的な環境整備を進めていく必要があります。

- 地域住民が主体となって地域の課題をビジネスの視点を取り入れながら解決するコミュニティビジネス⁴⁾が注目を集めています。

今後は、市や関係機関等の積極的な支援によって、地区協議会をはじめとする各コミュニティ組織が地域経済の活性化や地域コミュニティの再生に向けた主体的な活動が展開できる環境づくりが望まれています。



4) コミュニティビジネスとは、地域住民が中心となり、その地域の課題についてビジネス手法を用いて解決する仕組みのことです。



土木資材等支給事業



市長と地区協議会との意見交換会

市長と地区協議会との意見交換 参加者数

(単位：人)

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
地区 主な テーマ	小さな市役所、 これからのコ ミュニティに ついて	黒石力向上の ために、地区・ 行政がそれぞ れ何ができる か	地区による一 人暮らし高齢 者の見守り実 施状況とコミュ ニティ組織の 今後について	ごみ分別、高齢 者宅除雪、消防 団・自主防災組 織、コミュニテ ィビジネス、子 ども会・子ども 会育成会について	合計
山形	16	20	20	15	71
牡丹平	13	14	19	12	58
浅瀬石	16	16	16	37	85
追子野木	41	24	20	33	118
東	26	24	25	22	97
西部	21	18	16	21	76
中部	22	22	14	14	72
北	19	19	20	33	91
上十川	24	31	32	24	111
六郷	22	14	14	18	68
合計	220	202	196	229	847

資料：市企画財政部企画課

施策内容

- 「^{くろいしりょく}黒石力」の結集により地域コミュニティを活性化させ、地域のことは地域で考え行動する住民主体のまちづくりの実現に向けて取り組みます。
- 地域住民が主体となり、地域の課題解決をビジネスチャンスとするコミュニティビジネスの展開を図ります。

取組事業

事業等	事業等内容	担当課	備考
市民参加型の市政	市長と地区協議会との意見交換会、重要施策の住民説明会、パブリックコメントなどを実施することにより、市民と対話を行い、市民参加型の市政を進めます。	企画課	
子どもを育てる環境の構築	地区協議会や各種団体と連携を図り、地域の青少年が健全に育つ環境づくりに取り組むとともに、地区子ども会育成連合会や地区子ども会活動を支えるための支援を行います。	社会教育課	
市連合婦人会活動への支援事業	婦人会の更なる活性化と女性リーダーとしての資質向上を図り、女性が活躍し心豊かでぬくもりのある地域を構築する活動に対する支援を行います。 また、市連合婦人会の協力を得ながら本市の防災活動に取り組んでいきます。	社会教育課、総務課	
老人クラブ活動への支援事業	高齢者の社会参加及び自主的な運営・活動を促すための団体と位置づけし、新たな老人クラブの結成・会員増を図り、社会奉仕活動、教養講座の開催、健康増進事業（スポーツ活動）への参加を促し、老人クラブが高齢者の生きがい活動の主体として積極的な役割を担っていくことができるように支援します。	黒石市地域包括支援センター、社会教育課	黒石市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
コミュニティビジネスの研究	黒石力を高めるために、各地区協議会等 <small>くろいしりょく</small> で楽しく、前向きに実施できるコミュニティビジネスを研究します。	企画課	
黒石市ごみ減量化事業	資源ごみの分別やゴミの出し方とともに、食材を使い「きる」、食べ「きる」、生ごみの水を「きる」による3つの「きる」運動を広報や啓発活動を通じて定着させ、ごみ減量化とリサイクル率向上を目指し、資源物収集拠点施設の環境整備、並びに更なるごみ減量化施策を研究し、導入を目指します。	市民環境課	

地域力（黒石力） 向上事業	地域住民が具体的・実践的な企画運営による「特色ある地域活動」を継続するため、地域と行政が一緒になって地域の問題や住民の生活課題を見だし、話し合いから解決につなげるとともに、次世代の地域リーダーの発掘・育成と住民自治力を高めます。	社会教育課	
市民活動への奨励 制度の創設	市民活動において地域の課題解決やまちづくりに貢献する事業を奨励し、生涯学習のまちづくりの推進と黒石力の向上を図ります。 また、取り組みを広報紙や市のホームページ等に掲載することで、市民活動に対する理解と支援の輪を市内外に広げます。	企画課	第3次黒石市生涯学習のまちづくり推進計画
地域福祉推進体制 の充実	市民一人ひとりの自立を地域社会全体で支援する「地域福祉計画」に基づき、自助・共助・公助体制の構築を図ります。	福祉総務課	黒石市地域福祉計画
土木資材等支給事業	市と市民が協働により生活環境を整備し、住みよいまちづくりを推進するため、地区協議会や町内会が行う市道及び法定外公共物の舗装や改修等に要する土木資材の支給及び建設機械の貸与を支援します。	土木課	

この施策がめざす将来の姿

- 市民と対話を行い、市民と理想を共有しながら、市民参加型の市政を運営していきます。
- 地区協議会をはじめとする各種団体によるコミュニティビジネスの展開に向けた支援を行うことで、地域の課題を最もよく知っている住民が主体となって取り組み、住民に対してきめ細かなサービスを提供することで、黒石力（コミュニティ力）がさらに高まっています。

重要業績評価指標 (KPI)⁵⁾

指標	基準値	目標値
子ども会加入率 (%)	40% (2018 (H30) 年度)	60% (2024 年度)
※小・中学生加入率		
家庭生ごみ分別・処理施策導入可能性検討地域 (地区)	0 地区 (2018 (H30) 年度)	3 地区 (2024 年度)
ごみリサイクル率 (%)	12.5% (2017 (H29) 年度暫定値)	14.0% (2024 年度)
一人1日当たりのごみ排出量 (g/人・日)	955 g/人・日 (2017 (H29) 年度暫定値)	905 g/人・日 (2024 年度)

関連する個別計画

黒石市地域福祉計画、黒石市高齢者福祉計画・介護保険事業計画、社会教育課・各地区公民館・地区センター等事業計画、社会教育中期計画、第3次黒石市生涯学習のまちづくり推進計画



5) 重要業績評価指標 (KPI) とは、組織や事業、業務の目標の達成に向け、どの程度進捗しているかを測る指標のことです。

1.2 しごとづくりで自立したまち（産業振興）

現状と課題

- 農業では、本市はこれまで、国・県・関係団体と連携し、農業生産基盤の整備や担い手の育成をはじめ、多様な農業振興策を推進し、着実に成果を上げてまいりました。

しかし、高齢化による労働力不足や後継者不足、農業機械更新への投資、農産物の価格低迷などが要因となり、農業離れが大きな問題となっています。また、これにともなう耕作放棄地の増加が年々深刻化しています。

このため、今後もより一層、区画拡大、用排水施設や農道など農業生産基盤の充実、意欲と能力のある担い手の育成、農業者の法人化を推進し経営の合理化、観光や商業、工業といった他産業との連携、新たな連携・協働の創出として福祉との関係の強化等が求められています。

- 商業・サービス業では、車社会の進展や郊外型大型店の進出等を背景に、既存商店街の活力低下が進み、店主の高齢化や後継者不足も相まって一層厳しさが増えています。本市が平成29年度に行った「黒石市中心市街地活性化に関する市民アンケート調査」において、多くの市民が市街地の活性化を強く望んでいる結果となったことから、商店街の再生と創造が課題となっています。

また本市には、歴史と伝統に育まれた地酒や銘菓、伝統工芸品など、多くの特産品がある一方、卸売、小売業の年間商品販売額は、この10年で約17%減少しており、市内事業所が経営を存続するために、消費者ニーズに対応した「売れる・稼ぐ」商品開発と販売力の強化が必要となっています。

- 地元企業の経営の安定化を図るためには、生産性の向上に取り組むことが重要となっていますが、少子高齢化や若者の流出などにより、市内の生産年齢人口は今後も減少の一途を辿ることが見込まれ、「人財」の確保を図ることが難しくなっています。生産年齢人口の労働力以外にも、高齢者は有効な労働力として期待されており、豊富な経験や高い能力を活かせる仕組みづくりが必要となっています。

近年、有効求人倍率は改善傾向にありますが、非正規雇用や早期離職などといった雇用環境にも課題が残ることから、誰もが安心して働くことの出来る雇用環境を整備していくことが求められています。

- 本市の工業団地は既に売却済みであり新たな企業を誘致していくためには、官民が連携しながら新たな事業用地を創出していく必要があります。また、市内不動産の空き物件等の情報発信力を強化するなど、企業が進出しやすい環境を整備していくことが重要となっています。



寿司専米ムツニシキ収穫風景
(平成 30 年 9 月 17 日)



黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略に係る記者会見 (平成 29 年 10 月 13 日)

農業就業人口 (各年 2 月 1 日現在 / 販売農家)

(単位 : 人)

項目 \ 年	平成 1 7 年	平成 2 2 年	平成 2 7 年
農業従事者	5,151	4,502	3,775
農業就業人口	3,336	2,713	2,477
基幹的農業従事者	2,421	2,375	2,171

資料 : 『農林業センサス』 (農林水産省)

※基幹的農業従事者とは、農業就業人口のうち、普段仕事として主に自営農業に従事している者をいいます。

農業産出額 (推計)

(単位 : 千万円)

年	平成 2 6 年	平成 2 7 年	平成 2 8 年
総額	797	853	865
(内訳) 米	105	125	133
豆	1	0	0
野菜	85	98	109
果実	525	540	533
花き	15	17	15
その他の作物	7	9	10
肉用牛	1	1	1

資料 : 『市町村別農業産出額 (推計)』 (農林水産省)

従業者4人以上の事業所における各種データ

() 内は単位)

項目	年	平成26年	平成27年	平成28年
事業所数 (事業所)		43	43	46
従業者数 (人)		2,455	2,325	2,718
製造品出荷額等 (万円)		5,547,692	4,536,447	6,244,747
以下、業種別出荷額等内訳 (抜粋) (万円)				
食料品製造業		648,796	537,951	804,464
飲料・たばこ・飼料 製造業		245,174	266,237	258,811
繊維工業		75,842	87,145	99,351
印刷・同関連業		x	47,269	x
プラスチック製品製 造業		x	146,168	x
窯業・土石製品製造 業		160,964	149,742	154,201
金属製品製造業		239,214	160,207	213,502
業務用機械器具製造 業		3,649,047	x	4,172,982
電子部品・デバイ ス・電子回路製造業		337,372	300,127	293,609

資料：工業統計調査『経済センサス活動調査』（経済産業省）

※「x」とは発表を差し控えたもののことです。

施策内容

- 基幹産業である農林業がさらに魅力ある産業へと成長するため、農産物のブランド化、新品目の導入拡大、生産性の向上、後継者の育成により、経営の安定化を図ります。
- 地元企業の経営改善や後継者育成などの取組を支援するとともに、創業機運の醸成を図る取組を行います。創業者に対しては起業・創業に必要な知識の習得と経営の安定化を図るための支援を行います。
また、地場産業の競争力を強化するため、新たな産業創出を推進し、企業の誘致活動に取り組めます。
- 若者から高齢者までの多様な世代の就業の機会を創出することで、就業者が健康で安心して働くことのできる環境づくりに取り組み地元就職・地元定着を推進します。

取組事業

事業等	事業等内容	担当課	備考
次世代を担う女性 農業者活躍支援事 業	本市の基幹産業である農業の活性化を図るためには、若手女性農業者の活力とアイデアが必要であり、女性視点から考える地域農業の魅力、グループ活動等を広く発信させることを目的とし、農業の課題である後継者不足、労働力不足の解消と女性農業者が活躍できる環境づくりの推進を図ります。	農林課	
くろいし農産物等 販売力強化事業	競争力のある産地づくりを推進し、黒石産農産物の販路拡大と新規需要開拓を図ることで、農業所得の向上と地域ブランド力の強化を図ります。	農林課	
黒石特産果樹ブラ ンド化推進事業	消費者ニーズに即したぶどう品種として期待が高く、高単価が期待できるシャインマスカットの展示圃を設置し、栽培者を募ることで、働く場の提供と高収益農産物の普及拡大を図ります。	農林課	
黒石食ビジネス振 興事業	豊富な農林水産物や地域に古くから伝わる食資源の活用と新たな「食産業ビジネス」の創出により、地域農業者が主体となったコミュニティビジネスの展開を支援するとともに、黒石ブランドの構築を図ります。	農林課	
食育の推進	「食の知識」と「バランスの良い食」を選択する力を身につけ、健全な食生活を実践する力(習慣づける)を育むほか家族形態の変化、生活様式の変化により、「孤食」、「個食」が顕在化しているため、食文化を継承し、安全・安心な地元食材の消費を推進します。 また、農作物の栽培や収穫を通じて、農業に対する理解を深め、食に関する知識を楽しく身につけてもらうことを目的に市民農園を開設します。	農林課	第2次黒石市食育推進計画
黒石市中心商店街 空き店舗対策事業	中心商店街の空き店舗に出店する小売業者・サービス業者等に対し、新規出店に係る経費の一部を補助します。	商工課	黒石市中心市街地活性化基本計画
中心市街地活性化 推進事業	中心市街地の今後のあり方について、規模の大きな未利用の土地・建物も含めた課題や今後の活用方法を市民・企業・関係機関等と情報共有を図りながら、黒石市中心市街地活性化基本計画に基づき、市全体の活性化を図ります。	企画課、商工課、都市建築課	黒石市中心市街地活性化基本計画、黒石市立地適正化計画

創業・起業支援事業	創業希望者の起業に係るノウハウの習得と既起業家や支援機関、創業希望者とのネットワークの構築に対し、創業・起業希望者への支援を行うことで、起業意欲の醸成と潜在的な人材を発掘し、更なる商工振興を図ります。活躍できる環境づくりの推進を図ります。	商工課	黒石市中心市街地活性化基本計画
黒石ICロジスティクスクロッシング推進事業	黒石インターチェンジ周辺への産業集積を図るため、効率的で環境負荷の小さい製造業や物流関連企業を応援し、物流の拠点化・最適化を推進することで、雇用拡大を目指します。	商工課	東北自動車道黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略
黒石産品販路拡大支援事業	黒石産品を取り扱う市内事業所等の販路拡大を支援することで本市の食ビジネス振興を図り、外貨獲得による地域経済の活性化に向けた取組を推進します。	商工課	
人材確保・就職支援事業	早期離職率の減少、企業の求める人材の確保、人手不足を解消するため、魅力ある市内企業の情報を幅広く発信し、雇用のミスマッチの解消と人材育成による地元定着を図ります。	商工課	
シルバー人材センター事業	高齢者の誰もが長年培った知識・経験・技術を活かし、意欲と能力に応じて生涯現役で働き続けられるよう、地域のニーズに合った雇用環境づくりと社会参加を推進し、地域における活躍を支援します。	商工課	

この施策がめざす将来の姿

- 黒石ブランドの農産物の生産と販売の取組を支援し、農業関係者の所得が向上しています。
- 農業を強くするために担い手がやりがいを持って働ける環境が整備され、産業として活性化しています。
- 商工業における生産性の向上と物流の効率化、新規事業者の起業・創業による新たな担い手の創出などにより、地域経済の活性化が図られています。
- 地元就職を望む市民一人ひとりが自らの能力に応じ、意欲とやりがいをもって安心して働くことのできる環境となっています。
- 社会基盤の整備に伴う企業立地により雇用の場が創出され、次世代を担う人材の育成・確保により、多種・多様な産業の振興が図られています。

重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準値	目標値
育成する農業経営体数（経営体） ※農業経営体は、年間総労働時間が一人当たり 2,000 時間程度で、年間農業所得が 530 万円程度を目標とする。	419 経営体 (2017 (H29) 年度)	500 経営体 (2024 年度)
製造品出荷額（百万円） ※工業統計表より	62,447.47 百万円 (2016 (H28) 年度)	67,400 百万円 (2023 年度)

関連する個別計画

農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想、農業振興地域整備計画、第2次黒石市食育推進計画、森林整備計画、黒石市中心市街地活性化基本計画、東北自動車道黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略、生産性向上特別措置法に基づく導入促進基本計画、黒石市立地適正化計画



2.1 歴史と伝統を活かした元気なまち（文化）

現状と課題

- 芸術文化は人々に精神的な豊かさや感動を与えると同時に、コミュニケーションを活発にし、勇気と喜びをもたらすものとして生活に欠かせない重要な要素です。
本市では、文化協会を中心に様々な芸術文化活動が活発に行われていますが、これら市民主体の活動が一層活性化するように支援していくほか、多くの市民が多様な芸術や文化に触れ、活動し、発表できる環境整備に努める必要があります。
- 文化財については、重要文化財高橋家住宅、名勝金平成園（澤成園）のほか、県無形民俗文化財黒石ねぶたや大川原の火流し、県重宝黒石市消防団第三分団第三消防部屯所など、国・県・市により多数が指定されています。
これら指定文化財の保存や伝統芸能の後継者の育成支援に努めていくほか、市内外の多くの人々が本市の歴史や文化に親しめる環境づくりを進めていく必要があります。
- 本市には、歴史的・文化的資産が数多く残されています。これらの歴史的・文化的資産を観光資源として磨き上げ、観光振興を図ることにより誘客拡大や交流人口を増加させる必要があります。



黒石市民文化祭
(平成30年10月20日～11月4日)



中町伝統的建造物群保存地区

指定文化財一覧

No.	指定主体	種別	名称	員数	指定年月日	
1	国	重要文化財	高橋家住宅 (追加指定・蔵2棟 古文書5点)	1棟	昭和48年2月23日 平成16年12月10日	
2		名勝	金平成園(澤成園)		平成18年1月26日	
3		重要伝統的建造物群保存地区	黒石市中町伝統的建造物群保存地区		平成17年7月22日	
4		登録有形文化財	九戸家住宅主屋	1棟	平成18年10月18日	
5		登録記念物	鳴海氏庭園		平成19年7月26日	
6	県	県重宝	金梨子地牡丹紋散蒔絵衛府太刀拵	1口	昭和49年10月14日	
7		〃	法眼寺鐘楼堂	1棟	昭和53年8月24日	
8		〃	法眼寺本堂	1棟	平成5年4月16日	
9		〃	明暦二年津軽十郎左衛門拝領山形黒石領外浜平内領検地帳(明暦の検地帳)		平成12年4月19日	
10		〃	黒石市消防団第三分団第三消防部屯所	1棟	平成15年7月14日	
11		県無形民俗文化財	大川原の火流し		昭和58年1月20日	
12		〃	黒石ねぶた		平成5年4月16日	
13		〃	上十川獅子踊		平成11年7月23日	
14		県天然記念物	妙経寺のカヤの木		昭和63年10月25日	
15		〃	中野神社の対植えのモミ	1対	平成20年4月25日	
16		〃	薬師寺の石割カエデ	1本	平成26年4月18日	
17		市	民俗文化財	黒石よされ踊元踊		昭和57年11月4日
18			天然記念物	中野のモミジ	3本	昭和58年2月1日
19			〃	大杉	3本	昭和58年2月1日
20			有形文化財	浄仙寺仁王像	2体	昭和59年10月12日
21			民俗文化財	上十川の追分石	1基	昭和59年10月12日
22	〃		薬師寺の石敢當碑	1基	昭和59年10月12日	
23	〃		赤坂の庚申塔	1基	昭和59年10月12日	
24	〃		竹鼻の五庚申塔	1基	昭和59年10月12日	
25	有形文化財		藩祖信英公書状	1通	昭和61年1月7日	
26	〃		日蓮聖人断簡	1通	昭和61年1月7日	
27	〃		藩祖信英公書状(二)	1通	昭和61年8月7日	
28	民俗文化財		獅子が沢のしし石	2基	昭和62年1月10日	
29	天然記念物		袋のイチョウ	1本	昭和63年3月4日	
30	民俗文化財		馬場尻の庚申塔	1基	平成元年3月3日	
31	〃		竹鼻の廻国納経塔	1基	平成元年3月3日	
32	〃		竹鼻の百観音碑	1基	平成元年3月3日	
33	〃		法眼寺の砂踏之碑	1基	平成元年3月3日	
34	天然記念物		村上家のイチイ	1本	平成2年12月6日	
35	有形文化財		木庵性瑠像	1幅	平成4年3月6日	
36	〃		隠元隆琦像	1幅	平成4年3月6日	
37	〃		法眼寺開山堂	1棟	平成4年7月7日	
38	〃		法眼寺山門	1棟	平成4年7月7日	
39	〃		鳴海家住宅	1棟	平成10年4月10日	
40	〃		剣	1振	平成11年1月5日	
41	〃		御神刀	1振	平成12年3月24日	
42	〃		釣燈籠	1対2基	平成12年3月24日	
43	〃		石燈籠	2対4基	平成12年12月6日	
44	天然記念物		サルスベリ	1本	平成12年12月6日	
45	有形文化財		駕籠	1挺	平成12年12月6日	
46	天然記念物		高田家の糸ヒバ	1本	平成13年12月6日	
47	有形文化財		津軽信敏建立の石碑	1基	平成17年3月14日	
48	〃		藩祖信英公頌徳碑	1基	平成17年3月14日	
49	〃		黒石神社の神門	1棟	平成20年5月8日	
50	天然記念物		安入のハリギリ	1本	平成29年4月26日	

施策内容

- 「こみせ」などの伝統的建造物や、「大石武学流庭園」といった多くの歴史的資産を保存・活用することにより、かおり高い文化を築き、学びあうまちを目指します。

取組事業

事業等	事業等内容	担当課	備考
芸術文化の鑑賞機会・発表機会の充実、芸術文化団体・指導者の育成	文化協会が主催する市民文化祭や芸能発表会など魅力ある文化事業の企画や開催を促進し、多様な芸術文化を鑑賞する機会や活動成果を発表する機会の拡充に努めます。 また、黒石少年少女合唱団や、各芸術文化団体の指導者の育成と確保に努めるとともに、若者の加入に努めます。	文化スポーツ課	
文化財の保存・活用	指定文化財の保存と活用に努めるとともに、埋蔵文化財等について市民の協力を得ながら調査や収集等を行い、その保存や活用を進めます。また、大川原の火流しや上十川獅子踊などの伝統芸能の後継者の育成支援を行い、普及事業を推進します。	文化スポーツ課	
伝統的建造物群保存地区保存活用事業	黒石ならではの「こみせ」が連なる伝統的景観を後世に残すよう修理・修景の推進と防災力向上に努め、活用を促します。	文化スポーツ課	中町伝統的建造物群保存計画、中町伝統的建造物群保存地区防災計画
黒石市歴史的景観形成計画に関する事業	歴史的景観形成と住環境の整備改善を官民が連携して行い、歴史的町並みと共存する黒石らしい豊かでゆとりのある生活環境の整備を推進します。	都市建築課	黒石市歴史的景観形成計画
郷土が誇る人物の紹介	黒石力結集の一助として、市民が郷土に誇りと愛着を持つよう、名誉市民に代表される郷土に多大な貢献をした過去の人物について、市内外に紹介する場を設けます。	文化スポーツ課、秘書課、企画課	

この施策がめざす将来の姿

- 津軽特有の造園様式である「大石武学流庭園」や全国的にきわめて貴重な「こみせ」など、黒石ならではの観光資源を活かしたまちになっています。
- 多くの市民が多様な芸術や文化に触れ、活動し、発表することができる環境が整っています。

重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準値	目標値
中町伝統的建造物群保存地区保存修理工事延件数 (件) ※事業主は個人で、市は補助金を交付する。	16 件 (2018 (H30) 年度)	22 件 (2024 年度)
金平成園 (澤成園) 入込数 (人) ※園主は個人で、市は公開・管理を支援する。	2,028 人 (2018 (H30) 年度)	2,800 人 (2024 年度)
主要イベント ⁶⁾ 入込数(人)	169,764 人 (2017 (H29) 年度)	183,500 人 (2023 年度)

関連する個別計画

黒石市中心市街地活性化基本計画、黒石市歴史的景観形成計画、中町伝統的建造物群保存計画、中町伝統的建造物群保存地区防災計画



6) 主要イベントとは、「黒石よされ」、「黒石ねぶた祭り」、「黒石こみせまつり」、「クラシックカークラブ青森ミーティングinこみせ」のことです。

2.2 新たな拠点で人がにぎわう元気なまち（環境）

現状と課題

- 中心市街地における市民が集える拠点を作り出すことと、その中心市街地と市内各地のネットワークを形成する交通基盤をこれまで以上に強化することで、中心市街地の活性化を図ることが求められています。

小売業事業所数の減少等による中心市街地の経済活力の低下は、本市の大きな課題となっており、遊休資産の活用などによる新規出店数を増加させることで中心市街地の再生を図る必要があります。

また、市民が気軽に集い、憩うまちなかを創出するため、駅から徒歩圏内に商店街、金融機関、市役所などが立地したコンパクトな街なみを活かし、市民サービス施設や市立図書館等の公益的施設や各商店を「こみせ」でつなげることで、回遊性のある環境を整備し、まちなかににぎわいを創り出す必要があります。

- 本市の公共交通機関としては、弘南鉄道弘南線があり、民間バス路線16系統と市が運営を委託している回遊バス（ぷらっと号）5系統で、通勤・通学をはじめ市民の足として大きな役割を担っています。

今後は、増加していく高齢者などに配慮した、バス交通網のさらなる利便性向上が求められています。



松の湯交流館



こみせ観光ボランティアガイド

松の湯交流館入館者数

(単位：人)

年度		平成27年度	平成28年度	平成29年度
計		19,415	24,462	29,042
男女別	男	—	—	12,631
	女	—	—	16,411
地域別	市内	—	—	12,692
	市外	—	—	16,350
外国人		—	—	725

資料：市商工観光部観光課

施策内容

中心市街地に市立図書館や市民サービス施設等を整備することに加え、公共交通網等の利便性向上により、市民が気軽に集える「学び」や「憩い」、「にぎわい」の場を創出します。



取組事業

事業等	事業等内容	担当課	備考
公共交通ネットワークの構築	地域公共交通網形成計画を策定し、回遊バス・路線バスの経路や弘南鉄道とバスの接続、デマンド交通 ⁷⁾ やコミュニティバス ⁸⁾ の導入など持続可能な公共交通ネットワークの構築を検討します。	企画課	
松の湯交流館管理運営事業	コミュニティ及び観光・まち歩きの拠点として市の魅力を発信するほか、市民がまちなかに足を運ぶきっかけとなる事業を実施します。	観光課	黒石市中心市街地活性化基本計画
まちなか活性化事業	こみせ観光ボランティアガイドの会やNPO 法人横町十文字まちそだて会と連携しながら、まち歩き観光を推進するとともに、ガイドや受入れ事業者等の人材育成を図ります。また、かぐじ広場を活用したイベントなどの支援に取り組みます。	観光課	
市立図書館の整備	<p>中心市街地に学習の拠点となる市立図書館を整備し、市民が学び文化に親しむ街を作ります。</p> <p>また、検討にあたっては、関係団体や市民の意見を伺いながら、読書環境の確保と市内の回遊性向上を兼ねた、市民の集う図書館づくりを目指します。</p>	企画課、社会教育課	黒石市中心市街地活性化基本計画、第3次黒石市生涯学習のまちづくり推進計画
市民サービス施設整備事業	旧大黒デパートを解体し、跡地に市役所窓口業務等を含む市民サービス関連の複合施設を整備します。	総務課	黒石市中心市街地活性化基本計画

7) デマンド交通の「デマンド」とは「要求・要請」の意味で、利用者が電話などで乗車を事前予約し、それに合わせてバスやタクシーを運行する地域公共交通のことです。

8) コミュニティバスとは、交通が不便な地域の解消を図るため、市町村や地域等が主体的に計画して運行する乗り合いバスのことです。

この施策がめざす将来の姿

- 図書館や市民サービス施設等の新たな拠点が整備されることで、都市機能と回遊性が向上し、市内外の来訪者が集う「学び」と「憩い」のあるまちになります。
- 中心市街地の遊休資産などの再生が図られ、公共施設や各商店が「こみせ」でつながることで、商店街が活性化し、にぎわいのあるまちになっています。
- 子ども、高齢者、外国人、障がい者など全ての人が、安全・安心に利用できる新しい公共交通ネットワークが構築され、みんなが自由に移動できるまちになっています。

重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準値	目標値
新規出店数 (件)	10 件 (2013 (H25) 年度～2017 (H29) 年度の合計値)	15 件 (2019 (H31) 年度～2023 年度の合計値)
歩行者通行量 ⁹⁾ (人/日) ※平日・休日の計	3,974 人/日 (2017 (H29) 年度)	4,300 人/日 (2023 年度)

関連する個別計画

黒石市中心市街地活性化基本計画、黒石市地域公共交通網形成計画、黒石市立地適正化計画、第3次黒石市生涯学習のまちづくり推進計画



9) 中心市街地の6地点における、平日・休日各1日の合計人数です。

2.3 移住人口・交流人口の拡大で元気なまち（観光）

現状と課題

○ 昨今、全国的に訪日外国人観光客が増加し、その中でも本県は高い伸び率を記録しています。本市においてもインバウンド¹⁰⁾への対応は重要な取組のひとつであり、このチャンスを活かして増加傾向にある訪日外国人観光客を積極的に呼び込むことが求められています。

また、国内観光客に対しても、より効果的な受入体制を整備するなどの施策を展開する必要があります。

本市は、重要伝統的建造物群保存地区に選定された中町こみせ通りをはじめ、黒石温泉郷、中野もみじ山などの観光地や、黒石よされなどの祭り、こけし・ずぐりなど木工玩具、伝統的和菓子など豊富な観光資源に恵まれています。加えて近年は、ご当地グルメとして「黒石やきそば・黒石つゆやきそば」の人气が高く、観光資源としても期待されています。

しかし一方では対外的に魅力を伝えきれていない現状もあり、やさしさともてなしの心で来訪者を受け入れる体制づくり、特にすべての市民が観光客を積極的に迎え入れる意識の醸成が強く求められています。



黒石ねぷた
(平成30年7月30日～8月5日)



黒石よされ
(平成30年8月15日～20日)

10) インバウンドとは、外国人の訪日旅行のことです。

主要行祭事・イベントの観光入込客数

(単位：人)

項目	年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
旧正マッコ市		71,700	73,439	73,128	70,474	73,000
黒石さくらまつり		42,000	62,000	57,000	53,000	55,000
クラシックカークラブ青森・ミーティングinこみせ		26,000	29,000	21,000	29,000	15,000
黒石ねぶた祭り		60,000	70,000	64,000	62,000	65,000
黒石よされ		85,400	86,600	87,200	76,700	80,200
ふるさと元気まつり		28,000	20,000	17,000	20,000	22,000
農林総合研究所参観デー		12,000	12,500	10,500	9,000	9,000
黒石こみせまつり		6,036	9,526	6,674	8,848	9,564
中野もみじ山ライトアップ		103,140	97,126	108,092	94,087	102,330
黒石りんごまつり		10,400	11,800	10,100	13,161	10,583

資料：『青森県観光入込客統計』（県観光国際戦略局）

観光入込客数

(単位：人)

平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
764,035	679,597	703,113	656,382	623,088

資料：『青森県観光入込客統計』（県観光国際戦略局）

施策内容

- 黒石ねぶた・黒石よされなどの祭り、湯治場として栄えてきた黒石温泉郷の魅力を発信するとともに、インバウンドにも対応したまちづくりを行い、移住人口・交流人口の増加を図ります。

取組事業

事業等	事業等内容	担当課	備考
観光資源の充実・活用	観光等関連機関と連携し、黒石よされをはじめとする祭りやイベントの充実を図るとともに、自然や歴史・文化資源及び地場産品を活用しながら、通年で楽しむことのできる魅力ある体験型観光地づくりに取り組みます。	観光課	
インバウンドへの対応による交流人口の増加	国際交流員(CIR ¹¹)を招致することなどにより、インバウンドに対応したまちづくりを行い、交流人口の増加に努めます。	観光課	

11) Coordinator for International Relations (コーディネーター・フォア・インターナショナル・リレーションズ) の略。

黒石温泉郷の旅行者の受入体制の整備	黒石温泉郷の国内外の旅行者の受入体制を整備し、ブランドイメージを構築することで誘客を図ります。	観光課	
黒石よされ事業	市民総参加による黒石よされを目指し、伝統を継承するとともに、老若男女が一体となり、楽しめるまつりとなるよう支援します。	観光課	
黒石よされブラッシュアップ事業	県外へのPR強化による知名度向上及び、観光客の自由参加につながる環境整備により誘客促進を図ります。	観光課	黒石市中心市街地活性化基本計画
黒石ねぶた祭り事業	青森県無形民俗文化財に指定されている黒石ねぶたの歴史と伝統の継承を通じて青少年の健全育成を図るとともに、魅力あるふるさとづくりのため支援します。	観光課、文化スポーツ課	
黒石こみせまつり事業	祭りを通して「こみせ」の認知度向上並びに保存・修景に係る意識共有を図るとともに、まちなかのにぎわい作りと商業活性化を図るため支援します。	観光課、商工課	
中野もみじ山誘客推進事業	夜間ライトアップ演出や紅葉床を設置し、よさこい・ご当地キャラクター参加等のイベントや中野もみじ山写真コンテストを実施します。	観光課	
街なかイベント支援事業	中心市街地活性化エリアで開催されるイベントを支援することにより内容を充実させ、交流人口の増加を図ります。	観光課	黒石市中心市街地活性化基本計画
移住交流推進事業	都市に住む人が黒石市に移住してもらえるような取組を検討・実施するほか、周知・PR方法を工夫することで多くの人に来てもらう機会を増やします。 また、地域の人口や第1次産業の担い手の維持・確保のため、農山漁村活性化計画を策定し、地域間交流の促進による交流人口の増加に取り組めます。	企画課、農林課	

地域おこし協力隊 ¹²⁾ 事業	地域外の人材を地域おこし協力隊として積極的に呼び込み、黒石市を全国に売り込む担い手を育成することで、移住促進と市の活性化を図ります。	企画課	
ワーキングホリデー 黒石事業	都市部の人々に農作業体験や地域交流などを通じて、黒石市の魅力を体感してもらい、援農という側面から新たな労働力を確保し、滞在型観光による消費の拡大、人や情報の流れを創出し、将来的には定住促進を図ります。	農林課	
国際理解教育の推進	外国語指導助手（ALT）を外国語や国際理解教育の授業で積極的に活用することにより、学校における国際理解教育を推進します。 また、国際交流員を招致したり、韓国語講座事業を継続したりすることにより、生涯学習の面からも国際理解を高めていきます。	指導課、企画課	第3次黒石市生涯学習のまちづくり推進計画
市情報の発信	市ホームページの充実を図るとともに、SNS ¹³⁾ を活用し、市の情報発信を広く行い、定住促進に努めます。	企画課、広報情報システム課	
街なか情報発信事業	商店街マップや SNS 等で情報を発信し、街なかへの市民及び観光客の関心を高めます。	観光課	黒石市中心市街地活性化基本計画
広域観光体制の充実と PR 活動等の推進	津軽地域の魅力向上及び集客を促進するため、観光関係市町村と協力し、ポスターやパンフレット、ホームページ等を活用した PR 活動の推進を図ります。	観光課	

12) 地域おこし協力隊とは、市町村の委嘱を受け、その地域で生活しながら、農林漁業の応援や地場産品の開発など、市の活性化につながる地域活動に従事する人のことです。

13) ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略で、インターネットを利用して人と人とのつながりを支援するサービスのことです。

この施策がめざす将来の姿

- インバウンドに対応したまちづくりが行われ、すべての市民がやさしさともてなしの心で訪日外国人観光客に接することができるようになり、移住人口・交流人口が増加しています。
- かつて栄えた湯治文化の復活や、温泉地での新たな滞在スタイルを提唱・構築することにより、黒石温泉郷の国内外の旅行者の受け入れ体制が整い、各種体験や周遊プランなどを組み合わせて長期滞在できる黒石温泉郷ならではの魅力度がアップしています。
- 市ホームページを充実させ、SNS等を効率的に活用し、観光・イベント情報をはじめ、四季折々の情報を市内外に発信することで、市としてのイメージやブランドが確立され、交流人口の増加と定住促進につながっています。

重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値	目標値
黒石市観光入込客数 （延べ人数）	623,088人 (2017 (H29) 年度)	715,732人 (2024 年度)
市内温泉施設宿泊者数 （人）	44,257人 (2017 (H29) 年度)	47,449人 (2024 年度)

関連する個別計画

黒石市中心市街地活性化基本計画、第3次黒石市生涯学習のまちづくり推進計画



3.1 子育て支援と教育環境の充実で安心なまち(子育て・教育)

現状と課題

- 結婚・出産・子育て支援の充実では、わが国における急速な少子化の進行は、高齢化と連動し人口構造にひずみを生じさせ、将来の国民生活に及ぼす影響が懸念されています。このような中、家庭や子育てに夢を持ち、子どもを安心して産み育てることができる環境を整備していくことが強く求められています。

本市では、黒石市子ども・子育て支援事業計画を策定し、保育サービスの充実や子育て家庭の経済的負担の軽減、子育て不安等に対する相談事業の充実、放課後児童対策事業の充実など、少子化対策と子育て支援を総合的に推進してきました。

今後、これまでの取組をさらに強化するとともに、地域のネットワークづくりをサポートし、保護者同士の情報交換や児童虐待防止を図るなど、市と地域が一体となったきめ細やかな対応が求められています。

- 学校教育の充実では、子どもたちが生きる力を身につけ、これからの社会を築き支えていく人材として成長していくために、学校教育に求められる役割はますます大きなものとなっています。

本市では各学校において、家庭及び地域との連携を深めつつ、特色ある学校経営や個性を伸ばす教育の実践により、活力ある児童生徒の姿が多く見られるようになってきました。

しかし一方で、社会の急激な変化の中、児童生徒の自立の遅れや問題行動、学習意欲の低下など、様々な問題も生じており、これらに対応するため心の教育の充実や、児童生徒一人ひとりに確かな学力を定着させる教育力の向上などが求められています。

- 社会教育の充実では、大きく変化する社会構造に対応し、より豊かな暮らしを実現するためには、教育や経済、地域活動など、様々な分野において活躍できる人づくりが求められています。

本市では、地域の特性を活かしながら、少年期、青年期、成人期、高齢期のライフスタイルに呼応した学習機会の提供や読書運動の推進に努めてきました。また、市内に10地区協議会が組織され、地域コミュニティとして個性ある地域づくりに支援を行ってきました。

しかし近年、個人の価値観の多様化や連帯意識の希薄化などにより、組織リーダーの不足や高齢化が目立ち、地域活動に少なからず影響を及ぼしています。

今後は学校や家庭、地域の連携を密にし、若い世代にとっても魅力ある地域コミュニティ像を、どのようにして提示していくかが課題となっています。

○ 生涯学習社会の形成では、自己の充実や生活の向上、健康の増進等、様々な希望に応じた適切で豊かな学習機会の提供が求められています。

本市では、市民のニーズに応えるため、子どもから高齢者まで、幅広い年代を対象とした様々な教室や講座など各種事業を開催しているほか、関連団体の育成や学習情報の提供に努めていますが、学習の拠点となる施設の充実が求められています。

また一方では、行政以外の民間団体による多様な学習機会の提供、インターネットの普及をはじめとする情報化社会の進展など、市を取り巻く学習環境に変化がみられます。

このため、「生涯学習のまちづくり推進計画」及び「中心市街地活性化基本計画」のもと、図書館をはじめとする関連施設の整備と充実を図り、学習環境を確保すること、多様な学習情報を的確に提供することに加え、学習の成果を活かす新たな機会を設けるなど、生涯学習社会の形成に向けた取組をさらに進めていく必要があります。



小学校授業



妊産婦デイケアサービス「ポムハウス」

婚姻件数

(単位：件)

平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
151	120	118	125	144

資料：『人口動態統計』（県健康福祉部福祉政策課）

黒石市出生数及び出生率

(単位：人)

項目	平成25年			平成26年			平成27年			平成28年			平成29年		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
出生数	270	144	126	217	102	115	215	114	101	192	105	87	168	86	82
出生率	7.8			6.4			6.3			5.7			5.1		

※ここでいう出生率とは

$$\frac{\text{年間出生数}}{\text{その年の10月1日現在の人口}} \times 1,000$$

資料：『人口動態統計』（県健康福祉部福祉政策課）

市内小中学生人数

(単位：人)

項目	平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	合計	男	女												
小学校児童数	1,769	895	874	1,654	848	806	1,544	790	754	1,461	740	721	1,396	718	678
中学校生徒数	1,024	526	498	994	487	507	994	497	497	950	478	472	885	457	428

資料：『学校基本調査』（県企画政策部統計分析課）

学力状況調査の結果について

(単位：%)

項目	平成28年度						平成29年度						平成30年度						
	国語	社会	算数	理科	全体	国語	社会	算数	理科	全体	国語	社会	算数	理科	全体				
小学校5年	通過率	68.3	63.1	65.4	71.6	66.9	56.8	65.9	55.8	61.1	60.1	65	61	59	69	64			
(県通過率)	66.3	60.5	62.7	69.5	64.6	55.2	64.3	52.2	60.3	58.2	63	56	58	67	61				
中学校2年	通過率	54.6	61.9	47.0	48.6	61.7	55.1	53.5	50.5	41.0	46.7	52.5	48.9	44	52	44	43	48	46
(県通過率)	55.1	63.4	49.2	48.6	62.1	55.9	51.6	52.7	46.3	53.1	57.2	52.3	49	55	53	51	55	53	

※通過率(%)は「総正答数/総回答数」で算出(平成30年度のみ小数第1位を四捨五入した整数値)

資料：『学習状況調査の結果について』（県教育委員会学校教育課）

施策内容

- 本市の未来を担う子どもたちが、黒石市で生まれ、希望を持って成長し、その希望をふるさと黒石の地で実現できるよう、家庭、学校、地域を挙げた取組を進めます。
- 妊娠・出産期からの切れ目のない支援を目指し、安心して子どもを産み育てやすい環境の整備を図ります。
- 広い世界観を持ち、文武両道を重んじ、常に思いやりの心を大切にする人づくりに努め、子どもたちの希望をかなえるための「学び」の環境を整える取組を進めます。



取組事業

事業等	事業等内容	担当課	備考
健診及び相談・予防接種事業	子どもの健やかな成長を見守り育児ができるよう健診や相談場所の確保、親に寄り添った支援を目指します。また、予防接種しやすい環境づくりに努め、疾病の予防を推進します。	健康推進課	黒石市子ども・子育て支援事業計画
ハイリスク妊産婦アクセス支援事業	ハイリスク妊産婦 ¹⁴⁾ が治療・分娩・NICU ¹⁵⁾ 等入院時の面会等をするために総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターへ通院等するために要する交通費及び宿泊費について助成します。	健康推進課	黒石市子ども・子育て支援事業計画
特定不妊治療費助成事業	少子化対策の一環として、保険適用外の高額な医療費のかかる特定不妊治療を受ける夫婦の経済的負担を軽減するため、特定不妊治療費の一部を助成します。	健康推進課	黒石市子ども・子育て支援事業計画
こどもインフルエンザ予防接種費用助成事業	インフルエンザ予防接種費用の一部を助成することにより、こどものインフルエンザの発病・重症化及び蔓延を予防するとともに、保護者の経済的負担を軽減します。	健康推進課	黒石市子ども・子育て支援事業計画
子ども家庭対策事業	子どもを持つ家庭の生活支援のため、児童手当給付や子ども医療費の無料化を図ります。	福祉総務課	
ひとり親家庭等対策事業	子どもがいる家庭で母又は父がいないひとり親家庭や障がい者のいる家庭の自立支援のため、児童扶養手当給付や医療費の助成のほか、就労のための資格取得を支援します。	福祉総務課	

14) ハイリスク妊産婦とは、妊娠の継続や出産の状況によって、母子両者又はいずれかが重大な予後が予想される妊娠を抱える妊婦及びその出産による産婦を指しています。

15) NICUとは、新生児特定集中治療室のことです。

子育て支援事業	<p>小学校終了前の子どもの教育・保育体制を整え、保護者の就労等により発生する育児の諸問題をサポートします。</p> <p>18歳までの子どもの生活の場の充実を図り、児童の健全な育成に努めます。</p>	福祉総務課	黒石市子ども・子育て支援事業計画
要保護児童対策事業	<p>児童虐待等家庭での諸問題について相談に応じ、関係機関と連携し、必要な支援に努めます。</p>	福祉総務課	黒石市子ども・子育て支援事業計画
子育てサポート事業	<p>1歳未満の乳児と同一世帯の保護者に育児用品（紙おむつ・粉ミルク）購入に利用できる子育て応援利用券を交付します。</p>	黒石市子育て世代包括支援センター	黒石市子ども・子育て支援事業計画
産前・産後サポート事業	<p>妊産婦等が抱える妊娠・出産や子育てに関する悩み等について、助産師等の専門家による相談支援を行い、家庭や地域での妊産婦等の孤立化の解消を図ります。</p>	黒石市子育て世代包括支援センター	黒石市子ども・子育て支援事業計画
産後ケア事業	<p>産後の母子に対して、心身のケアや育児のサポートを行い、安心して子育てができる支援体制の確保をします。</p>	黒石市子育て世代包括支援センター	黒石市子ども・子育て支援事業計画
乳児家庭全戸訪問事業	<p>すべての乳児のいる家庭を訪問（生後4ヶ月までに）することにより、子育てに関する情報の提供並びに乳児やその保護者の心身の状況及び養育環境の把握を行うほか、養育についての相談に応じ、助言その他の援助を行います。</p>	黒石市子育て世代包括支援センター	黒石市子ども・子育て支援事業計画
養育支援訪問事業	<p>乳児家庭全戸訪問事業等により把握した養育を支援することが特に必要と認められる家庭又は出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦に対し、その養育が適切に行われるよう、当該居宅において、養育に関する相談、指導、助言その他の必要な支援を行います。</p>	健康推進課、黒石市子育て世代包括支援センター	黒石市子ども・子育て支援事業計画

食育推進事業	<p>食について考える習慣や感謝する心、食に関する知識など子どものころからの食育を推進します。</p> <p>また、食生活改善推進員のマンパワーの確保・活動の充実に努め、食生活に関する知識の普及に努めます。</p>	健康推進課	健康くろいし21（第2次）計画、黒石市子ども・子育て支援事業計画、第2次黒石市食育推進計画
婚活支援事業	<p>弘前圏域8市町村で連携し結婚支援を行います。広域で行うことによるスケールメリットを活かし、より多くの方に結婚していただくために、婚活イベントの開催や会員制のお見合事業への登録促進を行います。</p>	企画課	
生きる力をはぐくむ教育課程の編成	<p>学校訪問等を通じ、学校と地域の連携・協働による知徳体の調和と豊かな人間性を育むための教育課程の編成を支援します。</p>	指導課	
安心・安全な通学	<p>安心・安全な通学のために道路を整備します。</p> <p>また、スクールバスの運行等、遠距離通学となる児童生徒の通学を支援します。</p>	土木課、都市建築課、学校教育課	
算数・数学「UPる」事業	<p>小・中学校に算数・数学の学習をサポートする『「UPる」先生』を配置し、児童生徒に対してきめ細やかな指導を行います。</p>	指導課	
外国語指導助手派遣	<p>児童生徒の外国語や異文化に対する関心・意欲の向上とコミュニケーション能力の育成を図るため、学校に外国語指導助手を配置します。</p>	指導課	
学校給食の充実	<p>学校給食を活用した食に関する指導や、アレルギー対策等、安心安全で充実した給食を提供します。</p>	学校教育課	
地域学校協働活動の推進	<p>地域と学校が連携し、幅広い地域住民や保護者等の参画により、地域全体で子ども達の成長を支えるため、各地区子ども会育成連合会相互の連携協力体制の構築や幅広い地域住民の協力を得て社会総がかりで子どもの健全育成を推進します。</p>	社会教育課	

魅力ある子ども会の体制づくり・未来を担うリーダー研修会事業	子ども会がない町内の子どもたちを、他の町内の子ども会や地区子ども会育成会で受け入れられる体制づくりを構築するため、地区への支援を行うことで、子ども会の加入者数の増加を図ります。 また、集団活動を通して防災講座や自然体験活動を体験するリーダー研修会を中・高校生を対象に行い、子ども会ジュニアリーダーの育成を行うことで、未来を担うリーダーの資質向上を図ります。	社会教育課	
家庭教育向上事業	家庭教育に関する学習機会の充実や青少年の健全育成に関わる市民の意識高揚を図り、家庭教育支援者の発掘と育成を行います。	社会教育課	
指導者の育成と確保	様々な学習活動をサポートする指導者の育成やボランティア活動に対する市民の意欲の高揚と発掘に努めます。	社会教育課、企画課	第3次黒石市生涯学習のまちづくり推進計画
読書活動の推進	市立図書館の整備を核としながら、市民が本に触れ、読書を楽しむ環境の充実を図ると共に、市民の読書活動を積極的に推進します。	社会教育課、企画課	第3次黒石市生涯学習のまちづくり推進計画

この施策がめざす将来の姿

- 妊娠・出産期からの切れ目のない支援を目指し、子育てを社会全体で支えていくことで、安心して子どもを産み育てやすい環境が整備され、子どもが心身ともに健やかに育つまちづくりが実現しています。
- 小中一貫教育を目指し、文武両道で高い学力があり、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重するとともに、思いやりの心を大切にする「人づくり」がされています。
- 児童・生徒にとって、安心・安全な通学のための道路が整備されています。また、スクールバスの運行等、遠距離通学となる児童生徒の通学が支援されています。

重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準値	目標値
合計特殊出生率 ¹⁴⁾ ※厚生労働省「人口動態統計」より	1.25 (2008 (H20) 年度～2012 (H24) 年度)	1.28 (2018 (H30) 年度～2022 年度)
青森県学習状況調査教科全体通過率 ¹⁵⁾ (県全体通過率との差)	(小学校) +1.1 ポイント (中学校) -3.2 ポイント (2010 (H22) 年度～2017 (H29) 年度)	(小学校) +1.2 ポイント (中学校) ±0.0 ポイント (2018 (H30) 年度～2024 年度)

関連する個別計画

子ども・子育て支援事業計画、黒石市教育大綱、黒石市学校教育指導の方針と重点、黒石市学校施設の長寿命化計画、社会教育課・各地区公民館・地区センター等事業計画、社会教育中期計画、第3次黒石市生涯学習のまちづくり推進計画、黒石市特定事業主行動計画、黒石市子ども・子育て支援事業計画、健康くろいし21 (第2次) 計画、第2次黒石市食育推進計画



14) 合計特殊出生率とは、一人の女性が生涯に産むと見込まれる子どもの数のことです。人口を維持できる水準は2.07とされ、将来の人口が増えるか減るかを見る指標となります。

15) 通過率とは、設問の解答が正答である児童・生徒の割合のことです。

3.2 高齢者福祉の充実で安心なまち（福祉）

現状と課題

○ わが国では、世界に類例をみないスピードで高齢化が進んでおり、数年後にはこれまでの状況をはるかに超えた超高齢社会が到来します。

本市の65歳以上の人口割合である高齢化率（平成27年国勢調査）は29.7%で、県全体の平均（29.8%）とほぼ同じですが、国の平均（26.6%）を3.1ポイント上回っており、2025年には35.3%となると推計され、高齢化が確実に進行しています。

このような高齢化の進行に伴い、介護及び支援を必要とする高齢者やひとり暮らしの高齢者が増加することが予想され、地域の支え合いも含めた高齢者支援の強化が引き続き大きな課題となっています。

今後も、黒石市地域福祉計画や黒石市高齢者福祉計画・介護保険事業計画に基づき、介護予防を柱とした各種施策や事業を展開し、より多くの高齢者が可能な限り自立した日常生活を営み、健康で安心して暮らせるまちづくりを進めていく必要があります。



在宅医療・介護連携研修会



高齢者一人暮らし世帯給排水設備点検サービス

40歳以上の人口構造

（単位：人）

		平成17年	平成22年	平成27年	平成28年	平成29年
総人口	A	38,455	36,132	34,284	34,659	34,143
40～64歳人口	B	13,290	12,907	11,825	11,956	11,742
	比率 B/A	34.6%	35.7%	34.5%	34.5%	34.4%
高齢者人口 (65歳以上)	C	8,761	9,170	10,178	10,399	10,532
	比率 C/A	22.8%	25.4%	29.7%	30.0%	30.8%
	(青森県)	22.7%	25.8%	29.8%	30.4%	31.6%
	(全国)	20.1%	23.0%	26.6%	27.3%	27.7%
前期高齢者人口 (65～74歳)	D	4,804	4,443	5,004	5,227	5,295
	比率 D/A	12.5%	12.3%	14.6%	15.1%	15.5%
後期高齢者人口 (75歳以上)	E	3,957	4,727	5,174	5,172	5,237
	比率 E/A	10.3%	13.1%	15.1%	14.9%	15.3%

※平成17～27年の数値は国勢調査により、28～29年の数値は、10月1日現在の住民基本台帳人口による。

資料：『第7期黒石市高齢者福祉計画・介護保険事業計画』（市健康福祉部介護保険課）

平成29年分の高齢者人口比率における（青森県）分については県企画政策部調査、（全国）分については内閣府調査による。

施策内容

- 本市では高齢化が進んでおり、介護予防を柱とすることで、より多くの高齢者が可能な限り自立した日常生活を送れるように、健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます。
- 介護が必要になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう地域包括ケアシステムの充実に努めます。

取組事業

事業等	事業等内容	担当課	備考
高齢者保健福祉事業の推進	高齢者の健康づくりと、介護予防に向け、地域ぐるみの健康づくり活動の拡大、定着化を促進するとともに、健康診査、訪問指導、健康教室等の各種保健サービスの充実を図ります。また、高齢者がその能力や経験を活かし充実した生活を送れるよう、老人クラブ等への支援など、社会参加の促進に努めます。	黒石市地域包括支援センター、国保年金課	
地域包括ケアシステムの充実	市が主体となって、情報共有及び連携・協働による資源開発等、「定期的な情報の共有・連携強化の場」を設け、「我が事・丸ごと」の包括的な支援体制を整備します。	黒石市地域包括支援センター	黒石市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
高齢者地域見守り事業	65歳以上の単身高齢者に毎月1回市からの刊行物を手渡しして安否確認を行い、地域からの孤立及び孤立死の防止に努めます。	黒石市地域包括支援センター	黒石市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
認知症施策の推進	認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりのために、地域ネットワークで見守る体制を推進します。	黒石市地域包括支援センター	黒石市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
地域福祉ネットワークの構築	一人でも多くの市民が地域に関心を持ち、地域活動に参画するよう、広報及び啓発活動や福祉教育を推進します。	福祉総務課	黒石市地域福祉計画
介護保険事業の適正な運営	要介護認定、利用者の給付実績管理、保険料の賦課徴収などを公正かつ公平に行うとともに、利用しやすい介護保険事業の適正な運営に努めます。	介護保険課	黒石市高齢者福祉計画・介護保険事業計画

この施策がめざす将来の姿

- 高齢者が、住み慣れた地域において、健康で生きがいのある自立した生活を送ることができるような地域包括ケアシステムが整ったまちになっています。

重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準値	目標値
高齢者在宅医療・介護連携推進事業参加事業者数（機関、事業所）	17 医療機関 52 介護事業所 (2018 (H30) 年度)	43 医療機関 135 介護事業所 (2024 年度)
認知症サポーター数（人）	1,600 人 (2018 (H30) 年度)	2,000 人 (2024 年度)
生活支援体制整備 ¹⁸ 地区数（地区）	0 地区 (2018 (H30) 年度)	10 地区 (2024 年度)

関連する個別計画

黒石市地域福祉計画、黒石市高齢者福祉計画・市介護保険事業計画



18) 生活支援体制整備は、高齢者に係る地域包括ケアシステムにおいて、日常生活圏域ごとに、地域住民が主体となって、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりをめざし、医療や介護関係の団体のほか地域の様々な職種の方の参画による協議体を設置し、地域の課題等の情報共有と連携強化を図ります。

3.3 健康づくりの推進で安心なまち（健康・福祉）

現状と課題

- 健康づくりの推進では、市民一人ひとりが自らの健康を大切に、進んで健康づくりに参加できる社会の実現のために、個人の力とあわせて、社会全体として個人の行動変容を支援していく環境を整備することが重要です。

本市では、平成27年の「黒石市健康都市宣言」に基づき、生活習慣改善のための普及啓発を行い健康診査や、がん検診を中心とした二次予防対策の充実を図るとともに、生活習慣病の発症及び重症化予防のための取組が必要となっています。さらに現代社会におけるストレスの増大等に対して、心の健康づくりの取組も必要となります。

- 医療体制の整備では、地域で安心して暮らすためには、保健・医療・福祉の連携による総合的なサービス体制の整備が求められています。

国民健康保険黒石病院をはじめ市内外の医療機関との連携による地域医療の充実や、疾病の早期発見・早期治療及びリハビリ事業等、介護を要する状態にならないための予防に取り組み、これからも、高度化及び多様化する医療ニーズに応えられるよう、各医療機関とのさらなる連携強化が必要です。

- スポーツの振興では、本市は、体育協会と連携し、各種スポーツ教室等を開催しているほか、運動公園やスポカルイン黒石、スポーツ交流センターなどの施設の管理運営や学校施設開放事業を通じてスポーツ施設の環境整備の充実を図り、市民の健康の維持及び増進と市民相互の交流やスポーツ・レクリエーションの普及に努めています。

今後も、関係機関と連携を図りながら、競技スポーツ人口の拡大と、だれもが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションの普及や、市民一人ひとりの体力やライフスタイルに応じたスポーツ習慣の高揚を図るとともに、継続的にスポーツに親しむことのできる環境づくりを進めていく必要があります。





検診受診



市民運動会
(平成30年8月26日)

各種がん検診受診率

(単位：%)

項目	年	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
胃がん		33.1	34.6	33.2	31.5	42.0
大腸がん		37.7	40.7	42.0	40.8	45.0
肺がん		39.0	39.9	39.6	37.5	46.0
前立腺がん		37.9	40.2	37.7	35.8	47.0
子宮頸がん		29.8	33.4	31.4	35.7	40.0
乳がん		29.7	33.5	35.9	34.2	40.0

資料：市健康福祉部健康推進課

※受診率の算定方法：「住民全体から職場等を除いた者のうち、市町村事業におけるがん検診を受診した者の割合」

※30年度は目標値



黒石市スポーツ賞・スポーツ奨励賞 受賞一覧表

(単位：人)

項目		年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
スポーツ賞	受賞者総数		36	57	47	48	48	
	年齢・区分	小学生		2	2	2	0	4
		中学生		4	7	9	13	8
		高校生		22	22	28	31	31
		大学生		5	8	6	2	3
		一般		3	18	2	2	2
	競技内訳	陸上競技		18	15	15	10	14
		卓球		1	4	3	1	1
		フェンシング		3	3	5	5	4
		ソフトボール		1	2	2	2	4
		バドミントン		3	4	2		
		水泳		1		1	1	1
		柔道		4	5	4	2	4
		硬式野球		1			3	1
		軟式野球			14			
		バスケットボール		1	1	5	8	12
		サッカー		1	2	2	2	2
		アルペンスキー		1			1	
		ボクシング		1			1	
		ウエイトリフティング			1	5	1	
		剣道			1			
		ソフトテニス			5	3	3	1
		弓道					5	
		少林寺拳法					1	
		フットサル					2	1
		相撲						1
	テニス						1	
なぎなた						1		
スポーツ奨励賞	受賞者総数		63	61	49	25	41	
	年齢・区分	小学生（保育園児含む）		22	21	19	7	9
		中学生		14	26	14	12	6
		高校生		12	12	9	1	8
		大学生						2
		一般		15	2	7	5	16
	競技内訳	ウエイトリフティング		6	5	2		2
		陸上競技		14	11	8	3	
		卓球		10	2			
		フェンシング		5	3	4	3	6
		空手（極真空手含む）		10	12	7	10	7
		ソフトボール		1	19	1		1
		ソフトテニス		1	2	7	4	5
		テニス		1	2			
		軟式野球		13		1		7
		躰道		1	1		3	1
		剣道		1		1	1	
		水泳			1			
		バドミントン			2	2		4
		ボクシング			1	2		
		柔道				1	1	
		硬式野球				3		1
ミニバスケットボール					10			
バレーボール						7		

※黒石市スポーツ賞等表彰条例（平成9年3月21日条例第31号）抜粋
（表彰の基準）

第3条 最優秀賞は、その表彰が行われる年の前1年間（以下この条において「表彰前1年間」という。）において、スポーツ競技を世界規模で統括する連盟又は機構が主催する国際大会（次項において「国際大会」という。）に日本代表選手として出場し、かつ、入賞した者（市外に居住する市出身者を含む。次項及び第3項において同じ。）に授与する。

（中略）

3 スポーツ賞は、表彰前1年間において、次の各号のいずれかに該当する者に授与する。

- (1) 全国大会において、個人戦で入賞した者若しくは団体戦3位以内に入賞した者（前項第2号に掲げる者を除く。）又は東北大会において、個人戦3位以内若しくは団体戦2位以内に入賞した者
- (2) 国民体育大会に出場した者
- (3) 青森県体育協会加盟競技団体、青森県高等学校体育連盟及び青森県中学校体育連盟が主催する出場資格の制限のない県大会で優勝した者
- (4) その他前3号に掲げる者と同等の業績があったと認められるもの

（中略）

7 奨励賞は、表彰前1年間において、出場資格の限定されている大会等でスポーツ賞に準ずる業績であったと認められる者に授与する。

資料：市教育委員会文化スポーツ課

施策内容

- 平均寿命と健康寿命を伸ばすため、「黒石市健康都市宣言」に基づき、市民一人ひとりの健康的な生活習慣づくりや心の健康づくり、スポーツを通じた健康づくりなどを促進する取組を進めます。

事業等	事業等内容	担当課	備考
健康づくり体制の整備	保健・医療機関と連携し、健康づくりのリーダーや自主グループ等の育成に努め、市民の自主的な健康づくり体制の強化を図ります。	健康推進課	健康くろいし21（第2次）計画
特定保健指導、訪問指導、特定健診、肝炎検診、各種がん検診、歯周疾患検診、骨粗鬆症検診、結核検診	疾病の早期発見、早期治療を進めるため各種健（検）診を実施します。 また、未受診者への受診勧奨や保健指導の充実を図ります。	国保年金課、健康推進課	健康くろいし21（第2次）計画、黒石市第2期保健事業計画「第2期データヘルス計画」、黒石市第3期特定健康診査等実施計画
健康教育、健康相談事業	生活習慣改善のための知識の普及や健康に対する個別の相談に応じ必要な支援を行います。	健康推進課	健康くろいし21（第2次）計画

自殺対策の推進	こころの相談窓口の開設や様々な相談に対応できるよう、関係機関と連携し相談体制の充実を図ります。	健康推進課	健康くろいし21（第2次）計画、いのち支える黒石市自殺対策行動計画（仮称）
くろいし健康優良事業所連携事業	健康づくりに関心が高く、積極的に健康づくりに取り組んでいる事業所を募集し、一定基準をみたしている場合に健康優良事業所連携協定を締結し、事業所と連携した取組により健康づくり及び対策を推進します。	健康推進課	健康くろいし21（第2次）計画
スポーツ活動の充実	スポーツ情報の収集や提供を図り、市民のスポーツや健康づくりに対する意識の高揚に努めます。また、体育協会等と連携し、それぞれの体力や年齢、ライフスタイルに応じた、市民スポーツの推進を図ります。さらに市内の各種団体等の行事に出向いて、スポーツ・レクリエーションの普及に努めます。	文化スポーツ課	黒石市スポーツ推進計画
各種スポーツ教室	スポーツの普及・底辺拡大を図るために各種スポーツ教室を開催します。	文化スポーツ課	黒石市スポーツ推進計画
学校施設開放事業	健康づくりを推進するため、学校施設を有効活用しスポーツの推進を図ります。	文化スポーツ課	黒石市スポーツ推進計画
市民運動会事業	一市民スポーツの普及・推進と市内各地区による交流を図ります。	文化スポーツ課	黒石市スポーツ推進計画

この施策がめざす将来の姿

- 市民の検診受診率が高まり、市民がスポーツに親しめる環境が充実することで、健康寿命が伸びています。
- 医療体制の整備では、だれもが安心して暮らせるよう、行政と各医療機関が連携を図り、いつでも適正な医療を受けることのできる体制が整っています。

重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準値	目標値
胃がん検診受診率 (%)	25.3% (2017 (H29) 年度 : 参考値)	50% (2024 年度)
大腸がん検診受診率 (%)	32.0% (2017 (H29) 年度 : 参考値)	50% (2024 年度)
肺がん検診受診率 (%)	29.1% (2017 (H29) 年度 : 参考値)	50% (2024 年度)
子宮がん検診受診率 (%)	18.6% (2017 (H29) 年度 : 参考値)	50% (2024 年度)
乳がん検診受診率 (%)	33.3% (2017 (H29) 年度 : 参考値)	50% (2024 年度)
市民運動会事業参加者数 (人)	450 人 (2018 (H30) 年度)	600 人 (2024 年度)

※受診率の算定方法 : 「国民健康保険被保険者のうち、市町村事業におけるがん検診を受診した者の割合」

関連する個別計画

健康くろいし 2 1 (第 2 次) 計画、黒石市第 2 期保健事業計画「第 2 期データヘルス計画」、黒石市第 3 期特定健康診査等実施計画、地域福祉計画、国民健康保険黒石病院改革プラン、社会教育課・各地区公民館・地区センター等事業計画、社会教育中期計画、黒石市スポーツ推進計画



3.4 みんなが暮らしやすい安心なまち（安全・安心）

現状と課題

- 安全・安心への人々の意識が高まる中、地震や風水害、土砂災害などへの備えをはじめとする消防・防災体制の一層の充実が求められています。

本市の消防体制は、弘前地区消防事務組合による広域的な常備消防と、地域ごとに組織された消防団による非常備消防で構成され、互いに連携し消火・防火活動を行っています。

しかし、常備消防においては、「行政の広域化にどのように対応するのか」、消防団においては「新規団員の確保や、ほとんどの団員が他に生業を持っている現状で昼間の消防力をどのように維持するのか」、といった課題が生じています。

また防災面については、行政と市民、事業所、地域及び防災関係機関などと連携した危機対応力の向上が急務となっています。

このような中で、本市では地域防災計画を策定し、市及び防災関係機関と市民が一体となった取組を目指しています。

- ユニバーサルデザイン¹⁹⁾では、高齢化の進行で、加齢に伴う身体機能の低下によって日常生活に不便や不自由を感じることなく、高齢者が積極的な社会参加・参画ができる社会づくりが求められています。

また、少子化の進行で、子どもが健やかに育ち、安心して子どもを産み育てることのできる社会を実現するために、妊婦や子ども連れ、子どもなどにも配慮したまちづくりが求められています。

また、障がいのある人が、障がいのない人と等しく、主体的に自らの生き方を自ら選択し、地域で暮らしながら社会のあらゆる活動に参加・参画できるよう、障がいのある方への理解のもと、必要な支援や合理的な配慮がなされる環境づくりが求められています。

さらに、国際化の進展で、外国籍の市民や観光で来訪する人など、言語や文化、風習の違う人々にとっても、暮らしやすい環境づくりや快適に観光できる体制づくりが求められています。

19) ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、国籍、身体など、個々の人の特性や能力に関係なく始めからすべての人が利用しやすいように、まちや建物、製品、環境、サービスなど、社会全体を見直して改善していくという考え方です。



総合防災訓練



道路排雪

設立済み自主防災組織の活動内容及び回数

年度 項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (平成30年12月現在)
活動内容	○防災資機材の整備 (2団体、各団体1回ずつ)	○防災資機材の整備 (7団体、各団体1回ずつ)	○防災資機材の整備 (7団体、各団体1回ずつ)
	○防災訓練 (2団体、各団体1回ずつ)	○防災訓練 (1団体1回、1団体2回)	○防災訓練 (2団体各1回ずつ、1団体2回)
	○防災冬季訓練 (1団体、1回)	○防災冬季訓練 (1団体、1回)	○避難・避難誘導訓練 (1団体、1回)
	○防災講座 (1団体、3回)	○防災講座 (1団体、2回)	○防災講座 (1団体、2回)
	○講座資料作成 (1団体、1回)		
	○防災用品購入 (1団体、1回)		

※主な防災資機材：ピブス、ヘルメット、寝袋、ラジオ、血圧計 など（抜粋）

※その他、黒石市総合防災訓練に参加している団体もある

※ピブスとは、「交通班」「救護班」など、遠くから見ても役割が分かるように使用するベスト状の布のことで。

資料：市総務部総務課

施策内容

- 地震や豪雨による災害、事故などの危険から市民の生命と財産を守るため、ハード・ソフト両面から取組を進めて、危機管理や防災体制の強化を図ります。
- 施設や道路のバリアフリー化に加え、除雪、子育て支援、障がい者福祉、観光客や外国人への対応など、各分野における市の取組を整理し、年齢や性別、心身の状態、言語の違いなどに関わらず、だれもが利用しやすい安心・安全のユニバーサルデザインのまちづくりに努めます。
- 障がい児・者本人が望む地域生活の実現や職場への定着を図り、自立した生活と社会参加を促進するよう努めます。

取組事業

事業等	事業等内容	担当課	備考
自主防災組織の設立と支援に関する事業	災害に強いまちづくりを進めるため、自主防災組織の設立及び防災士の資格取得など地域の安全を確保する活動に対して支援します。	総務課	
ユニバーサルデザインのまちづくり	市民が笑顔で語り合える、ユニバーサルデザインのまちを目指し、子ども、高齢者、障がい児・者を含めたすべての市民が、安全に暮らせる環境づくりに向け、ユニバーサルデザインのまちづくりを関係部門が協力し研究に取り組みます。	企画課、福祉総務課、黒石市地域包括支援センター、土木課、都市建築課	
防災情報の周知及び伝達に関する事業	防災行政無線や広報車等を活用し、災害情報を周知・伝達します。	総務課	
弘前圏域空き家・空き地バンク	弘前圏域8市町村内の空き家・空き地の有効活用を目的に、空き家・空き地を売りたい又は借りたいという移住・定住希望者又は利活用希望者との橋渡しを進めていきます。	総務課、企画課	黒石市中心市街地活性化基本計画
総合的な防災体制の確立	防災に関する広報及び啓発活動の推進や総合防災訓練を実施し、市民の防災意識の高揚と危機対応力の向上に努めます。また、防災行政無線等を活用し、災害時の情報伝達体制の充実を図ります。	総務課	

公共施設のマネジメント	市では、平成28年度に「黒石市公共施設等総合管理計画」を策定し、長期的視点に立った公共施設の総合かつ計画的な管理に関する基本方針を定めていますが、施設ごとの具体的な管理方針を示すため、総合管理計画に基づいた「個別施設計画」を策定し、公共施設の適切な維持管理・修繕の実施とトータルコストの縮減・平準化に取り組めます。	財政課	
再生可能エネルギー導入の推進	国や県、企業等と連携して、地熱・小水力・バイオマスなど自然エネルギーを活用した発電事業の実施に向けた調査・研究や支援を推進していきます。	市民環境課、企画課	
生活支援の充実	居宅介護や重度訪問介護をはじめ、障がい児・者の日常生活及び日中活動を支援する各種サービスの充実に努めます。	福祉総務課	黒石市障害福祉計画・障害児福祉計画
意識啓発等の推進	障がいや障がい児・者に関する市民の理解を深め、ノーマライゼーションの理念の一層の浸透を図るため、啓発活動や交流事業、福祉教育等を進めます。	福祉総務課	黒石市障害者支援計画
居住環境の向上及び定住化の推進	住宅に困窮する高齢者、障害者及び子育て世代等が安心して暮らせることを目的とし、老朽化した公営住宅の建替え整備及び改修整備を進めます。	都市建築課	黒石市公営住宅等長寿命化計画

この施策がめざす将来の姿

- 消防・防災では、あらゆる災害に迅速かつ適切な対応ができる基盤が確立され、災害に強い安全なまちが整備されています。
- ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、子ども、高齢者、障がい児・者を含めたすべての人の生活や活動がしやすい環境が整備されています。

重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準値	目標値
自主防災組織率 (%)	26.3% (2017 (H29) 年度)	100% (2024 年度)

関連する個別計画

地域防災計画、災害時要援護者避難支援プラン、国民保護計画、障害者支援計画、障害福祉計画、障害児福祉計画、黒石市公営住宅等長寿命化計画

